

令和6年度

学校教育計画



大阪府立八尾北高等学校

目 次

1. 学校教育活動の方針	2~13
(1) 学習指導の方針	2~4
(2) 特別活動の方針	5、6
(3) 道徳教育及び生徒指導の方針	7、8
(4) 進路指導の方針	9、10
(5) 人権尊重の教育の方針	11
(6) 健康管理と指導の方針	12
(7) 学校組織の運営方針	12
(8) 教員の研修方針・研修計画	13
2. 校務分掌	14~17
(1) 校務分掌表	14、15
(2) 学年主任、ホームルーム担任一覧表	16
(3) 生徒会活動、部活動担当者（顧問）一覧表	17

(1) 学習指導の方針

- ・生徒が学習の意義を理解し、学業に対する目的意識を持ち、基礎学力を高められるように指導にあたる。そのことを通じて、生徒一人ひとりが自ら考え自ら学ぶ力を身につけ、生涯学習社会に対応できるように努める。
- ・卒業後の姿を考え、学習の目標を持たせながら、望ましい学習習慣を身につけさせる。
- ・生徒個々の能力・適性を的確に把握し、指導内容の精選、指導方法の工夫により、分かりやすい授業を行い、学習の手ごたえを実感させる。なお、生徒の心身の状況によって履修することが困難な教科・科目については、その生徒の状況に適合するように配慮する。
- ・1人1台端末等、学習のためのツールを活用し、生徒の学びを高められるよう工夫する。
- ・基礎的・基本的な学力を確実に身につけさせるとともに、学習意欲の高い生徒に対しては自主的に学習を深められるような学習指導上の配慮を行う。
- ・2・3年生において、多様な選択科目があることを最大限に活用し、教育内容を深めていく。
- ・総合学科の特性を生かして、生徒のライフプラン・進路希望に柔軟に対応できるカリキュラムのあり方を検討する。
- ・学校の教育方針、教育課程および各教科の目標にそった資料の充実に努める。
- ・生徒の読書環境・学習環境の充実に向けた、魅力ある学校図書館づくりに努める。

(i) 教科指導

(a) 国語科

- ①基礎的な読解力の向上を図る。
- ②基礎的な表現力の向上を図る。
- ③教材を通じた、自己を取り巻く諸問題について考察させる。

(b) 地歴・公民科

- ①科目としての到達目標を明らかにして授業に取り組む。
- ②抽象的な思考や概念を、具体例をもとに理解させる。
- ③科目の特性に合わせ、発信・発表の機会を設定する。

(c) 数学科

- ①必修科目（数学Ⅰ、数学A）については、中学校までの復習を交えながら、基本的な内容の演習を行う。また、数学を学ぶことを通じて、物事を論理的に考える力をつけさせる。
- ②選択授業については、基本的事項をしっかりと身につけさせるだけでなく、進路希望に応じた力をつけさせる。

(d) 理科

- ①自然にかかわる基礎的・基本的な学習を通して、原理・法則を理解させる。
- ②日常生活との関連を重視しつつ、観察・実験を通して、科学への関心を高める。
- ③生徒の能力、興味・関心や進路希望に応じて科学的素養を養う。

(e) 保健体育科

- ①運動の実践や保健の学習を通じて、体力の向上や健康の大切さについて学ぶとともに、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎的な力を培う。
- ②安全な行動や人権の尊重のために、集団行動の徹底を図る。
- ③各競技の学習を通じて、集団の中で協力しあう力や、相互学習・相互批判の姿勢を養う。
- ④自己の体力を分析し理解する力を養うとともに、調和のとれた体力を保持するための運動実践を行う。
- ⑤生涯を通じて健康への関心を持ち続ける姿勢を養う。

(f) 芸術科

(音楽)

- ①音楽的感性を養い、豊かに表現する能力を身につける。
- ②生徒同士で発表しあい鑑賞する場を設け、他者の表現を認め合う。
- ③演奏技術の基礎基本を徹底して学び、自己表現力を高める。

(美術・工芸)

- ①美術・工芸に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにする。
- ②生徒の個性を生かし、それぞれの感性・創造的な表現・鑑賞の能力を高める。
- ③日常生活の中で美的感覚を磨き、創造的思考・表現を行う意欲と態度を養う。

(書道)

- ①基礎的な書写能力を身につけ、現代の生活様式に合った書作品を創造できる生徒を育てる。
- ②現代の生活文化に存在する様々な書作品を鑑賞する能力を育てる。
- ③将来にわたって芸術を愛好するところを育てる。

(g) 英語科

- ①教科「外国語」の科目を中心に、進学に対応可能な英語運用能力を養う。
- ②教科「英語」の科目を中心に、英語や外国の文化に対する興味関心を養う。
- ③進路保障のため、英語セミナーを開講し、できる限り細かく指導していく。

(h) 家庭科

- ①生活に関わる具体的な事象を教材とし、実習・実験を通じて科学的に学び、実践的な態度を育てる。
- ②ひとりの生活者として家庭的に、社会的に自立した生き方を考えさせる。
- ③「ともに生きる関係」を生活の原点に据えて、心豊かな人間らしい暮らしを学ばせる。

(i) 多文化共生(オアシス)科

- ①母語と日本語における読解力(読む力)の向上を図る。
- ②母語と日本語における表現力(書く力)の向上を図る。

(j) 情報科

- ①情報の活用、管理の重要性を理解させる。
- ②ビジネス社会で役立つ考え方を身につけさせ、コンピュータを活用できる能力を高める。
- ③社会の一員として情報を正しく取捨選択できる能力を向上させる。

(k) 福祉科

- ①社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的・体験的に習得させる。
- ②社会福祉の理念と意義を理解させる。
- ③社会福祉に関する諸課題を主体的に解決しようとする、創造的・実践的な態度を育てる。

(ii) 学習指導方法

- ①教科ごとに必要に応じて教科連絡会を持ち、生徒の実態を把握し、教材の精選・充実を図り、具体的指導法・進度・家庭学習課題・評価法等について検討する。
- ②公開授業週間や校内の授業見学などを利用して、教科内だけでなく他教科とも意見交換を図り授業力の向上につなげる。
- ③教科主任会議や授業改善推進委員会による教科の垣根を超えた研究協議により、教科間の連絡を密にし、指導方法に一貫性を持たせるとともに、学校教育自己診断の結果も参考にして、本校の生徒に密着したより効果的な教育方法を研究する。
- ④地域の中学校とも連絡をとり、個々の生徒の実態を把握するとともに、中学校での学習内容についても研究し、学習能率の向上を図る。
- ⑤各種の研究会、研修会や他校の見学等に参加し、その成果を互いに連絡し合い今後の指導に役立てる。

(iii) 学習指導の改善と留年・退学の防止

- ①総合学科の理念に基づき、生徒の学習志向も考慮した上で、その特色を生かしたカリキュラムを編成する。1年次では基礎学力の補充・充実を図るため選択科目を最小限とするが、3年間ではおよそ40単位の選択科目枠を設け、生徒の進路・適性・興味・関心に対応できるカリキュラムを編成する。
- ②授業の観察・診断テスト・生徒および保護者との面談・中学校との連絡等により、学習到達度の低い生徒を把握し、状態に応じた対応を心がける。

- ③生徒の実態に合った「生徒が手ごたえを感じる授業」が行えるように教材を精選し、教具・指導方法を工夫する。
- ④補充授業や補習授業、および個別指導等を継続的に行い、学力の向上を図る。
- ⑤落ち着いて授業ができるように、授業規律を定め学習指導の徹底を図る。
- ⑥特別活動等教科以外の面での活躍の場を設定し、学校生活にメリハリをつけさせ、自信を持たせる。
- ⑦「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」で入学した生徒に対しては、1年次より、日本語能力の不足を補うための日本語の授業や、一般教科での抽出授業を設定する。また、選択科目には母国語講座を設け、その力の向上を図る。
- ⑧授業公開や授業情報交換などの機会を有効に活用し、教職員の授業力の向上を図る。

(iv) 学習指導関連の日程

4月	学級担任による生徒との個別面談
6月	保護者懇談
6～7月	科目選択予備調査①
7月下旬	成績不振者指導
9～10月	科目選択予備調査②
10～11月	保護者懇談
11～12月	科目選択本調査
12月下旬	成績不振者指導

※各考査前には状況に応じて学年ごとの学習指導部が勉強会を設定する。

(2) 特別活動の方針

- 学年集会・校外学習・HR活動・クラブ活動等を通して高校生活における集団生活、集団活動の重要性を理解させるとともに集団における自己の役割と責任を深く考えさせる。

(i) 特別活動の年間計画

①ショートホームルーム

午前8時 30 分と終業後に各 10 分、諸注意・諸連絡を行うとともに、生徒の身だしなみや健康状況、家庭での学習状況等の把握につとめる。

②ロングホームルーム

ガイダンス部による年間計画に基づき、進路HRや人権HR、行事の準備・計画などに組織的に取り組む。集団における自己の役割と責任を考えさせる場となるよう、創意工夫しHR指導の質を高める。

③生徒会

生徒会規約に基づき、生徒会活動の基礎づくりと、さらなる活性化を図る。

④部活動

新入生へのクラブ紹介と体験入部期間の設定等により、部活動の活性化を図る。

⑤全校および学年集会

適宜、全校集会・学年集会を開き、生徒各自がよき校風づくりの担い手であるよう自覚を持たせる。特に学年集会においては、学年に必要な事項について指導する場とする。

(ii) ホームルーム活動の年間指導計画

進路関係のホームルーム活動については p.8 参照。また、適宜学年集会や人権ホームルームを行うほか、遠足や修学旅行前には事前指導等を行う。

	1 学 年	2 学 年	3 学 年
4月	クラス開き 学級役員選出 交通安全講習会	クラス開き 学級役員選出	クラス開き 学級役員選出 体育祭役割選出
5月	体育祭準備 体育祭種目エントリー SNS講演会	体育祭準備 体育祭種目エントリー SNS講演会	体育祭準備 体育祭種目エントリー SNS講演会
6月	体育祭準備 後期生徒会役員選挙	体育祭準備 後期生徒会役員選挙	体育祭準備 後期生徒会役員選挙
7月	文化祭準備 科目選択予備調査① 性教育講演会 授業アンケート	文化祭準備 科目選択予備調査① 薬物乱用防止講演会 授業アンケート	文化祭準備 授業アンケート
8月	文化祭準備	文化祭準備	文化祭準備
9月	文化祭準備 科目選択予備調査②	文化祭準備 科目選択予備調査②	文化祭準備
10月	文化祭準備	文化祭準備	文化祭準備

11月	前期生徒会役員選挙 科目選択本調査	前期生徒会役員選挙 科目選択本調査	前期生徒会役員選挙
12月	授業アンケート	授業アンケート	授業アンケート 卒業に向けて 薬物乱用防止講演会
1月			
2月	生徒総会	生徒総会	

(3) 道徳教育及び生徒指導の方針

- ・生徒指導にあたっては、人間尊重の精神に立脚しながら、生徒一人ひとりの理解をすすめ、生徒の自主性・自律性を開発する機能が高められるように、全教職員一体となった指導体制の確立をはかる。
- ・生徒自身が自己をみつめ探求する中から徳性を涵養し、自ら品位を高め常に向上するよう努力させる。
- ・自ら困難を克服し、自己の生活を律し、進んで公共に奉仕するよう指導する。
- ・生徒と教職員の相互信頼を重視し、あらゆる機会をとらえて生徒との人格的接触をはかりながら、和・敬の精神を念頭に、なごやかな生活環境づくりをめざす。
- ・生徒指導カードを作成して生徒理解に資するとともに、保護者・生徒との対話を通じて生徒の悩みや問題を把握し、支援を必要とする生徒を早期に発見し指導する。
- ・覚せい剤や「出会い系サイト」等で高校生の関与する事例が増加しているため、青少年サポートセンター、所轄署とも連携して事前防止に努める。

(i) 道徳教育

①目標

人間尊重の精神を基調とし、人権教育の理念を生かすことにより、同和問題をはじめとする様々な人権問題を解決しうる資質と実践力を身に付けさせる。また、より望ましい生き方に対する探求心を持った人間の育成をめざす。

②教科

すべての教科活動の中に、人間尊重の精神を正しく位置づけ、心情・態度および実践意欲の向上をはかる指導によって道徳的実践力を育成する。

③特別活動等

生徒会活動を通じて自主性を体得させ、積極的に話し合い連帯感の確立をはかるとともに、実践に向けて活動する力を養う。

④家庭および地域社会との連携

家庭・地域の要望を把握し、学校からも協力を要請して生徒の道徳性育成のための連携を深める。

(ii) 生徒指導

①個別指導

- ・学年当初に、学級担任による個人面談・オリエンテーションの機会をもち、生徒の状況を早期に把握する。
- ・登校時、校門・自転車置場等で、服装指導を含めた遅刻防止の指導をする。遅刻した生徒に対しては、生活指導室で入室許可証を発行する。常習傾向のある生徒については、生活習慣の改善や、起因する背景の把握のために、家庭との連絡を綿密にするとともに、個人指導を強化する。
- ・担任・生活指導部・保護者等との緊密な連携によって、支援や指導が必要な生徒の発見に努める。学級担任と教科担当者との連絡を密にし、適宜、関係教員の会議を開き、生徒の抱える問題について分析し、それらを解消する方法を検討する。
また、非行の発生源となるような場所の巡回をするとともに、校外の青少年補導機関と情報の交換を行う。
- ・問題行動が発生したときは関係者による協議のうえ、迅速に対応する。その際、原因の分析・経過・指導について記録し、事後の参考にする。その際、必要に応じて関係機関と連絡をとり、補導に万全を期す。生徒に対しては学級担任・生活指導部員をはじめ、関係教職員で協力して指導にあたる。なお、平素より保護者と緊密な連絡をとり、生徒の実態を把握し、未然防止のため適切な指導を続ける。
- ・地域社会および出身中学と連携し、生徒の家庭環境・生育歴・生活態度等の情報を得て、適切

な指導にあたる。

②集団指導

- 生徒指導の中心になる学級担任と生活指導部をはじめ各部との密接な連携をはかり、全教職員が積極的に指導を行える体制の確立をはかる。なお、毎日の授業や年間の行事はすべて集団指導実践の場として取り上げる。
- 校則のもつ意味や理由についてよく理解させるよう努める。
- 高校生の陥りやすい問題行動については、学級担任を通じて注意を促す一方、集会などの機会を有効に活用し、それらの行動の問題性を理解させることにより未然に防止するように努める。

③交通安全教育

- 交通安全に対する意識を高めるため、全校集会やホームルームにおいて指導をすすめる。また、保護者向けプリントを通じて保護者の理解を求めながら、人命尊重の意味と自己の安全や家族との関わりを含めて指導する。
- 年間の指導計画は次の通りである。

5月（1年）	新入生に対する交通安全教育
通年	登下校時における校門指導
4・5・1・2月（1、2年）	保健授業において交通安全教育
長期休業期間前	全生徒に対し啓発プリント配付

(4) 進路指導の方針

- 本校在学中の3年間で、主体的に社会とつながり、参画できる意欲、態度、資質を備えた生徒、将来のビジョンを持って今を生きる生徒を育てていく。

(i) 基本方針

①ガイダンス機能の充実

多様な生徒の具体的な問題を的確に把握するとともに、生徒が自らの進路を適切に選択できるよう、いつでも進路相談に応じ、情報をすみやかに提供する支援体制を整備する。このため、インフォメーションルームにおいて、上級学校・企業の資料だけでなく、進路設計や職業理解に関する関連資料なども整備し、常時進路相談に応じ得る体制をとっている。

②指導体制の拡充と保護者連携

進学や就職などに関して企業訪問や学校訪問を実施し、積極的に情報の収集・整備に努めるとともに、校内研修や学年会などに適切に情報を提供するなど、全教職員が一丸となって進路指導に当たれるようにする。また、保護者懇談や説明会などを通して、緊密に連絡を取りながら教職員と保護者が連携して生徒を育ててゆく。

③人権尊重の進路保障

国際人権規約等の精神に則り、被差別の立場にある生徒の進路保障に積極的に取り組む。就職指導に当たっては、各職業安定所を始め関係諸機関と緊密な連絡を取って実施する。

(ii) 具体策

- ①人間関係を構築するためのプログラム等を通して、学ぶ場所（居場所）としての学校生活に適應できるように配慮する。（人間関係トレーニング）
- ②「社会への扉」、「総合的な学習の時間」、HR等を使って、何のために学ぶのか、何のために生きるのかを問いかけ、行動するためのモチベーションの向上に力を注ぐ。（モチベーション）また、職業や上級学校の基本知識、資格取得過程、進路設計の基礎作りも行う。（知る）
- ③職業体験による主体的な学習を取り入れ、生徒の自己学習力を向上させる。（体験学習）
- ④「社会への扉」「課題研究」の発表会などに向けてプレゼンテーション能力を高めることで、社会に発信していく能力を培う。（プレゼンテーション）
- ⑤系列ガイダンスや選択科目ガイダンスに時間をかけ、自己のビジョンに適應した科目選択ができるよう支援する。（自己決定）
- ⑥社会とのつながりを意識し、社会・地域と生徒をつなぐ活動を日常的に行う。（コーディネート）
- ⑦保護者の理解を求め、協働して生徒のキャリアガイダンスを進める。（三者連携）

(iii) 進路指導年間計画表 ※年度当初の計画内容

月	学 年	内 容
4月	全学年	進路意識アンケート
	3年	個人懇談週間（担任と個別懇談、進路確認） 進学セミナー開始 課題研究スタート、就職模試①
	1年	オリエンテーション 社会への扉開始 実力模試
	2年	社会への扉再開 実力模試
5月	3年	日本学生支援機構奨学金説明会 分野別説明会
6月	3年	就職模試②
	全学年	保護者懇談
7月	1・2年	科目選択ガイダンス① 進路ホームルーム インターンシップ啓発
	3年	進路別ガイダンス 就職差別問題学習 夏季進学セミナー開始 求人票公開 応募前職場見学 第3回就職模試
	2年	バス見学会

	1年	分野別説明会
8月	3年	応募前職場見学 学校斡旋就職校内選考 面接指導 履歴書作成の指導 指定校推薦一覧表公開 進学模試
9月	3年	面接指導（担任と面談、入社試験の指導） 指定校推薦入試説明会
	1・2年	科目選択ガイダンス② 進路ホームルーム
10月	3年	進学模擬面接 推薦入試個別指導 課題研究プレゼン準備
11月	3年	校内課題研究発表大会
	2年	進路ホームルーム 進学就職ガイダンス 地域探求開始
	1年	進路ホームルーム SDW リサーチ
12月	2年	地域探求 就職塾（～3年9月）
	2年	SDW 発表準備
1月	3年	入社心得指導（社会的責任について指導） 課題研究発表全体会
	2年	第1回面接指導（個人面接）課題研究事前準備
	1年	進路ホームルーム（2年生に向けて）
2月	2年	進路希望調査
	1年	SDW 発表会
3月	2年	進学セミナー

(5) 人権尊重の教育の方針

「知る → 見つめる → つながる → 行動する*」という学習プロセスを柱に据え、次のことを様々な人権課題に共通することとして重視しながら、人権教育に取り組む。

*「知る → 見つめる → つながる → 行動する」とは、「差別の現実を「知る」→自分や社会を「見つめる」→仲間と「つながる」→差別をなくすために「行動する」という一連の学習プロセスのことである。

- ①差別をする人は、結局自分や他人を傷つける。（＝「差別をしない」生き方の重要性）
- ②“分からない”ことを“分かろうとしない”ことは、差別につながる。
- ③自分の中にある「偏見」や「同情心」と向き合う。
- ④“他人事”ではなく、“自分のこと”“仲間のこと”として考える。（自分のための学習）
- ⑤自分の言いにくいことを打ち明けることの意味、打ち明けられるような仲間づくり（＝自己開示）
- ⑥差別や偏見をなくすために、自分にはどんなことができるか考える。（＝「行動」の重要性）

- (i) 各学年とも、人権ホームルームの時間を設定し、生徒に豊かな人権感覚を身につけさせるように努める。
- (ii) 受け身的な学習ではなく、生徒が主体的に参加する人権学習を積極的に構築する。
- (iii) 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」で入学した生徒たちが在籍している意味を考える取組みを行う。
- (iv) 被差別部落、在日外国人、障がい者、アイヌ民族、野宿生活者、女性、セクシャルマイノリティ等の個別の人権課題について深めて学習するとともに、それぞれの人権課題に共通することについても考える学習をできるようにする。

(6) 健康管理と指導の方針

- ・生徒自らがより健康的な生活を実践できるよう、基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ・全教職員が生徒の心身の健康状況を把握し、生徒の実態に応じた指導を行う。
- ・生徒による清掃活動を充実させ、学習環境を整備する。

(i) 学校保健計画

- ① 健康診断等を通じて、自己の身体について理解させ、必要な治療をおこなうよう指導する。
- ② 疾病予防、体力増進について指導・助言を与える。
- ③ 学校保健組織（教職員・生徒）の充実を図り、保護者との連絡を密にし、保護者の理解と教職員の協力体制を樹立する。
- ④ 生徒保健委員会に指導・助言を与え、活動の活性化を図ると共に、生徒が自ら健康課題を見つけ解決する実践力を育成する。
- ⑤ 心に悩みを持つ生徒や、家庭の問題、経済的な問題を抱える生徒を早期に発見し、より良い支援ができるよう、生徒・保護者の相談活動を推進する。

(ii) 学校安全計画

- ① 救急体制の再確認
- ② 安全点検
 - ・定期的実施し、事務室及び関係職員と緊密な連絡をとり危険を防止する。
- ③ 非常災害に対する対策
 - ・毎年防犯防災計画を立て、防犯防災対策組織と任務分掌を明確にする。避難訓練の実施、防災用具点検を定期的実施する。
- ④ 教育活動中の事故防止対策
 - ・体育活動等で使用する用具の点検、事故防止対策、救急事態発生に対する救急体制を確立し、事故発生時にはスムーズに処置がとれるよう、全教職員に周知徹底させる。

(iii) 体育指導計画

教科指導・学校教育全体を通じ、以下の3点に留意して行う。

- ① 体力の向上
 - カリキュラムにそって各種目の特性をベースに自己の体力の分析、理解をさせ、調和のとれた体力づくりを目標化させる。
- ② 生涯スポーツ
 - 運動の楽しさや喜びを体験させることにより、自ら実践する意欲を持ち、日常生活における運動への指向性が生涯を通じて継続的な運動の実践につながるような指導を心がける。
- ③ 健康な心身の発達のために
 - 健康な心身とその障害について科学的な理解を深めさせると共に、自主的に健康の保持増進に関する問題を解決する能力と態度を身につけるよう指導する。

(7) 学校組織の運営方針

- ・憲法・教育基本法の精神に則り、学校教育法に示された高等学校の教育目標を達成することをめざし、本校の校訓「流汗求道」の実践を通しつつ、一人ひとりの生徒の健全な生き方の育成を全校教職員協力体制のもとにすすめる。

(8) 教員の研修方針・研修計画

- 各種打合せ会・研究会・研修会を設定し、教職員相互の共通理解を深め、意思の疎通を図り、生徒の状況や学校の課題を的確に把握し対応する指導のあり方を研究する。
(教科会、分掌会議のほかにも、系列会議なども適宜立ち上げ、開催している。)
- 各教科・各部の研究会・各種の研修講座・講習会等に積極的に参加し、また必要に応じてそれらの校内伝達研修会を開くことによって、教職員の資質向上を図る。
- 初任者に対する校内研修を充実させるとともに、中堅教員の指導力向上の機会を増やす。
(府全体の初任者研修のない火曜日の放課後に、中堅・ベテラン教員が講師となり、初任者だけでなく教職経験の浅い教員や講師、その他希望する教員も対象として、月1度のペースで開催している。)
- 公開授業など授業に係る研修の機会を設定し、授業指導技術の向上に努める。
(学習指導部が授業公開プロジェクトとして、企画・運営している。)

(i) 定例に開く打合せ会・研究会

運営委員会、学年会議、学年主任会議、教科主任会議、職員会議

(ii) 必要に応じて開く打合せ会・研究会・研修会

教科会議、校務分掌部会議、カリキュラムマネジメント・コア委員会など各種委員会、校内初任者研修、その他研修の結果報告および伝達会

(iii) 校内研修予定

実施(予定)日	形式	内 容	使用資料
4月4日	着任者研修	本校の特色、学校経営の現状と課題	プリント等
7月6日	全体研修	保健研修会(エビペン使用)	講演、資料
7月下旬	全体研修	AED講習会	講演、実技、資料
7月下旬	全体研修	進路指導講習会	講演、資料
7月7日	全体研修	人権研修会(在留資格等について)	講演、資料
未定	全体研修	人権研修会(同和問題について)	講演、資料

2. 校務分掌

(1) 校務分掌表

【分掌別学年配置】

分 掌	代表	1 年	2 年	3 年	人 数
学 習 指 導	北野	山下聡、西野、 松村、王、大澤 (5人)	尾崎、宮野、石原、 北下 (4人)	迫、堀内、北野、 林 (4人)	14人 (趙先生含)
生 活 指 導	吹野	福永、藪内、吹野、 中島、 島津、本田 (6人)	生野、渡邊裕、 影山、 藤崎、大江、市川 (6人)	永喜、山口、渡邊由、 宮本、 西口、福田、池田 (7人)	19人
保 健 指 導	秋元	黒須、藤原怜 (2人)	岩崎、永井、高木 (3人)	秋元、多賀 (2人)	7人
ガイダンス	祝	家迫、保田、長尾、 上田 (4人)	市野瀬、馬淵、高 橋、 杉谷、藤井 (5人)	中屋、横田、祝、 藤原洋、中村 (5人)	14人
総 務	中野美	中前、中野弘 (2人)	佐藤、藤田和 (2人)	中野美、神保 (2人)	6人

※帰国生担当（趙）は学習指導部、学年は無所属

※実習教員は分掌・学年所属があるが、学年会には参加しない。

【教科別学年配置】

教科	代表	1 年	2 年	3 年	無	人数
国語	迫	山下聡、中野弘	高橋、杉谷、渡邊裕	迫、中屋、北野	趙	9人
社会	市野瀬	長尾、中島	市野瀬	山口、横田、神保		6人
情報	松村	松村	北下	堀内		3人
数学	大江	島津、家迫、吹野	大江	福田、西口、林		7人
理科	西野	西野、中前	尾崎、藤田和	秋元		5人
体育	馬淵	藪内、保田	馬淵、藤崎、影山	渡邊、宮本		7人
芸術	岩崎	—	佐藤、岩崎、市川	池田、永喜		5人
家庭	永井	黒須	永井	中野美		3人
英語	本田	福永、本田、王、上 田	生野、宮野、石原	祝、藤原洋、中村		10人
養護		藤原怜	高木	—		2人
実習		大澤	藤井	多賀		3人
		19人	20人	20人	1人	60人

※帰国生担当（趙）は国語科、学年は無所属

【系列】統括：学習指導部部長（北野）

系列名	系列長	構 成
国際コミュニケーション系列	山口	石原 福永 藤原洋 中村 生野 宮野 本田 祝 上田 趙 王 (12名)
福祉ネットワーク系列	黒須	永井 中野美 高橋 (4名)
情報テクノロジー系列	松村	堀内 北下 大江 家迫 島津 吹野 福田 林 西野 中前 神保 横田 (13名)
人間科学系列	西口	山下 迫 杉谷 中野弘 中屋 市野瀬 秋元 渡邊裕 長尾 中島 藤田 尾崎 (13名)
ライフクリエーション系列	佐藤	藪内 渡邊由 保田 藤崎 馬淵 影山 宮本 市川 池田 永喜 岩崎 (12名)

【各委員会等】

委員会名	委員長	構 成
運営委員会	山口勝	山下尚・山口勝・青代・石原・佐藤秀・北野・吹野・西口・秋元 祝・中野美・中前・島津・大江・福田
補導委員会	吹野	山下尚・山口勝・石原・佐藤秀・吹野・福田・島津・大江 生野・藪内・山口登・関係学級担任・関係教員
予算委員会	互選	山口勝・佐藤秀・青代・北野・
ICT推進委員会	松村	山口勝・佐藤秀・北野・松村・堀内・島津・大江・福田 福永・馬淵・池田
授業改善推進委員会	互選	石原・佐藤・尾崎・研修受講者・有志
カリキュラムマネジメントコア委員会	石原	山口勝・石原・佐藤秀・北野・吹野・祝 *拡大コア会議の際は、教科主任が入る
学校保健委員会	秋元	山下尚・山口勝・秋元・藤原・高木 西岡Dr・大音Dr・岸Dr・PTA会長
支援委員会	山口勝	山下尚・山口勝・石原・佐藤秀・秋元・藤原・高木・大江・福田・島津 関係学級担任(必要に応じて)
いじめ防止対策委員会	山口勝	山下尚・山口勝・石原・佐藤秀・吹野・秋元・藤原・高木 福田・大江・島津・関係学級担任
安全衛生委員会 (食堂委員会)	山下尚	山下尚・山口勝・青代・秋元・藤原・高木・宮本 (食堂：ゆうとおん、 購買部：安井商店)
アレルギー対策委員会	藤原怜	山下尚・山口勝・秋元・藤原・高木 福田・大江・島津・関係学級担任(エピペン所有等)
人権委員会	石原	石原・中前・横田・尾崎・山下聡
ハラスメント防止委員会	山口勝	山口勝・石原・ 黒須・中野弘・宮野・藤崎・林・堀内
国際交流委員会	石原	石原・長尾・生野・中屋・宮野
校外学習委員会	山口勝	山口勝・佐藤秀・吹野・北野・福田・大江・島津
制服検討委員会	吹野	山口・青代・石原・佐藤秀・吹野・祝・福田・大江・島津

(2) 学年主任・ホームルーム担任一覧表

【首席 石原 和享 / 佐藤 秀敏】

【第1学年 学年主任 島津 大輔】

クラス	生徒数			担任	副担任		担任外
	男	女	計				
1組	18	21	39	藪内	黒須	松村	大澤、吹野、 藤原怜、 島津
2組	17	21	38	家迫	中島		
3組	17	21	38	西野	上田		
4組	18	20	38	保田	中野弘		
5組	19	19	38	福永	本田	中前	
6組	19	20	39	山下聡	王	長尾	
計	108	122	230	19名			

【第2学年 学年主任 大江 真太郎】

クラス	生徒数			担任	副担任		担任外
	男	女	計				
1組	10	27	37	市野瀬	高橋	岩崎	高木、藤井、 大江
2組	9	27	36	藤崎	杉谷		
3組	10	27	37	宮野	渡邊裕	佐藤	
4組	9	27	36	尾崎	藤田	永井	
5組	10	27	37	生野	影山	石原	
6組	10	27	37	馬淵	北下	市川	
計	58	162	220	20名			

【第3学年 学年主任 福田 拓也】

クラス	生徒数			担任	副担任		担任外
	男	女	計				
1組	14	20	34	中屋	宮本	西口	北野、秋元、 祝、中野美、 多賀、福田
2組	14	20	34	迫	渡邊由		
3組	14	20	34	堀内	池田	藤原洋	
4組	14	20	34	永喜	林		
5組	15	19	34	横田	神保		
6組	14	20	34	山口登	中村		
計	85	119	204	20名			

※ 中国帰国生担当：趙仁淑（学年には所属しない）

(3) 生徒会活動、部活動担当者(顧問)一覧表

① 生徒会顧問 西口 島津 本田 藤崎 大江 市川 福田 池田

② 部活動顧問

部	顧問名(先頭=主顧問)	所属生徒数									
		1年			2年			3年			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
体育系	硬式野球	市野瀬 吹野 横田 影山 福田 宮本	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	サッカー	藤崎 中屋 藪内 中島 宮本	4	6	10	3	3	6	4	2	6
	陸上競技	中屋 藤原洋 中村 北下	0	0	0	1	0	1	1	0	1
	男子硬式テニス	西口 祝 林	2	0	2	4	0	4	2	0	2
	女子硬式テニス	祝 山下 西口	0	0	0	0	0	0	0	6	6
	男子バレーボール	島津 影山 吹野 横田	1	0	1	2	0	2	7	0	7
	女子バレーボール	福田 中島 保田 渡邊由	0	1	1	0	4	4	0	1	1
	男子バスケットボール	山口 藤田和 本田 高橋 藪内	7	0	7	1	0	1	0	0	0
	女子バスケットボール	高橋 藤田和 上田 山口	0	0	0	0	1	1	0	1	1
	バドミントン	松村 黒須 山下 市野瀬 生野 宮野	7	2	9	1	3	4	2	2	4
	剣道	中野弘 永喜 神保 王	1	1	2	0	0	0	0	0	0
	水泳	迫 西野 渡邊由 尾崎 秋元 上田	0	0	0	0	0	0	5	0	5
	ダンス	家迫 馬淵 保田 藤井 藤田和 高橋	0	3	3	0	5	5	0	9	9
	合気道(同好会)	馬淵 宮野	0	0	0	0	6	6	0	0	0
	体操競技(同好会)	保田 市野瀬	1	2	3	0	2	2	7	3	10
	小 計	24	15	39	12	24	36	29	24	53	
文化系	書道	渡邊裕 永喜 北下	0	0	0	0	3	3	0	0	0
	放送	福永 家迫 西口	1	2	3	0	3	3	0	0	0
	漫画研究	杉谷 中村 大澤	0	2	2	1	2	3	3	0	3
	軽音楽	北野 林 秋元 佐藤 藤原怜	6	8	14	2	12	14	4	2	6
	美術	岩崎 池田 大江	0	1	1	0	0	0	3	5	8
	写真	長尾 池田 神保 北野	0	1	1	2	2	4	0	0	0
	手話	中野美 市川 堀内	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	演劇	大江 藤原洋 生野 本田	0	3	3	1	2	3	1	0	1
	吹奏楽	堀内 松村 佐藤 宮野 市川	1	0	1	0	2	2	1	3	4
	茶道	永井 岩崎 多賀 高木	0	0	0	0	3	3	0	1	1
	生活デザイン	黒須 永井 多賀 藤崎	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	生物	中前 尾崎 西野	0	0	0	0	4	4	0	1	1
	部落解放研究	石原	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	朝鮮文化研究	石原	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	障がい者問題研究	石原	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多文化共生部	趙 福永 王 迫 山口 中前 長尾 島津	12	9	21	4	11	15	7	4	11
		小 計	20	26	46	10	45	55	19	16	35
	合 計	44	41	85	22	69	91	48	40	88	